

長岡造形大学
大学院造形研究科修士課程

入学試験過去問題集
(2025 年度)

2025 年度 長岡造形大学大学院（修士課程）前期入学試験 小論文

問 題

近年、あらゆる領域において知識や技術へのアクセスが容易となり、専門家と非専門家の垣根が低くなりつつあります。このような状況を踏まえ、以下の問いに答えなさい。

問 1．あなたの専門領域において専門家と非専門家の境界線がどこにあるか考え 100 字程度で記述しなさい。複数挙げても構いません。

問 2．問 1 で挙げた境界線が曖昧になることによるリスクと可能性について 1000 字程度で論述しなさい。

2025 年度 長岡造形大学大学院（修士課程）後期入学試験 小論文

問 題

美学会『美学事典』（2020）「デザイン論の展開—芸術工学」（伊藤亜紗執筆）には、以下の
ような叙述がある。

デザイン（design）の語は、ラテン語の designare に由来し、これは「しるしをつける
こと」という意味をもつ。この背後にあるのは、制作を「計画」と「実行」という二段階
に分ける発想である。実行に先立ってあれこれ工夫し、想像力によって展開した計画がデ
ザインである。その意味では、あらゆるものづくりにはデザインが関わっているといえる
が、工業化によって実行が機械化されると、狭義のデザイン概念が確立した。

デザインとアートが対立的に論じられる場合にも、強調されるのは、このデザインと産
業の結びつきである。すなわち、アートは「問いを発するもの」、対してデザインは「問題
を解決するもの」とされるのである。しかしながら、近年、両者の区別は曖昧になりつつ
ある。問いを発することを目的としたデザインや、問題解決に取り組むアートが登場して
いるからである。

問 1．ここでは、新しいデザインの考え方として以下の三つが挙げられている

- ①スペキュラティブデザイン
- ②インクルーシブデザイン
- ③コミュニティデザイン

上の 3 つのうち、どれか一つを選んで、具体例を挙げながらその内容を説明しなさい。

（200 字程度）

問 2．下線部のように、デザインとアートの区別が曖昧になっている動向に対して、自らの
研究がどう関わるかを説明しなさい。

（800 字程度）